逆関数補償形等価無時定数検出法 (第3報)

嶺 勝 敏* · 川 崎 元 之*

Non - Time Delay Detecting Method Used of Inverse Transfer Function Type Compensator (Report No. 3)

by

Katsutoshi Mine and Motoyuki Kawasaki

Abstract

In the preceding paper, we had declared about non-time delay detecting method used of inverse transfer function type compensator,

But this method fault being weak to noise at input of compensating circuit, output of detecting mean, for flat frequency characteristic

In this paper, we declared about theoretical comparison and experimental result by analog computer, on this method and proportional imperfect differential type compensating method and approximate inverse transfer function type compensation, and that experiment by approximate inverse transfer function type compensation.

1. まえがき

われわれは,前報¹⁾²⁾において, 1次おくれ検出系の 逆関数形補償法について述べた。

しかしこの方法は、周波数特性が良すぎるなどのため に、補償回路の入力側すなわち検出回路の出力側からの ノイズに弱い欠点があった。

本報では、1次おくれ検出系について、本方式の従来 の比例不完全微分形補償法³⁾ならびに近似逆関数形補償 法⁴⁾との理論的な比較およびアナログ計算機での実験結 果を示し、あわせて近似逆関数補償法による実系での実 験結果について述べる。

2. 原 理

2-1 ステップ応答

(1) 逆関数形補償法 Fig. 1に示す. 検出補償系の原理図において,検出要素の伝達関数 Ga (s) が既知であり,かつ1次おくれ系である場合,

* 電気工学教室

$$E_{i}(s)$$
 $E_{d}(s)$ $E_{o}(s)$ $E_{o}(s)$

Fig. 1. Block diagram of non-time delay detecting System used of inverse transfer function type Compensation.

$$G_{c1}(S) = \frac{1 + I_{c1}S}{K_{c1}}$$
(2)

とすれば、ステップ入力 $E_i u(t)$ に対する応答 $E_0(t)$ は、

$$E_{o}(t) = \pounds^{-1} E_{o}(S) = \pounds^{-1} \frac{K_{d}}{K_{c1}} \frac{1 + T_{c1}S}{1 + T_{d}S} \frac{E_{i}}{S}$$
$$= \frac{K_{d}E_{i}}{K_{c1}} \left\{ u(t) - (1 - \frac{T_{c1}}{T_{d}}) \exp(-\frac{t}{T_{d}}) \right\} \cdots (3)$$

(3)式は, $T_{c1} = T_d$, $K_{c1} = K_d$ に調整すれば

以来一般に用いられている方法である。これに対して前 述の逆関数形補償法は,比例完全微分形補償法であると いえる。

Fig.1において, Ga(S)は(1)式とし,

とすれば、ステップ入力 $E_{iu}(t)$ に対する応答 $E_{o}(t)$ は、 $T_{c2} \Rightarrow T_{d}$ なるとき、

$$E_{o}(t) = \mathcal{L}^{-1} \frac{K_{d}}{K_{c2}} \frac{1}{1+T_{d}S} \left(1 + \frac{T_{c2}S}{1+T_{c2}S} \right) \frac{E_{i}}{S}$$
$$= \mathcal{L}^{-1} \frac{K_{d}}{K_{c2}} \left\{ \frac{1}{S(1+T_{d}S)} + \frac{T_{c2}S}{S(1+T_{d}S)(1+T_{c2}S)} \right\}$$

$$= \frac{K_d E_i}{K_c} \Big(u(t) - exp \left(-\frac{t}{T_d} \right) + \frac{T_{c2}}{T_d - T_{c2}} \\ \left\{ exp \left(-\frac{t}{T_d} \right) - exp \left(-\frac{t}{T_{c2}} \right) \right\} \Big]$$
(6)

(6)式の応答をFig.2に示す.







ig. 2. step response of Proportional imperfect differential type compensator

同様に、 $T_{c2}=T_d$ に調整したときは

$$E^{o}(t) = L^{-1} \frac{K_{d} E_{i}}{K_{o2}} \left\{ \frac{1}{S(1 + T_{d}S)} + \frac{T_{d}S}{S(1 + T_{d}S)^{2}} \right\} = \frac{K_{d}E_{i}}{K_{c2}} \left\{ u(t) - exp(-\frac{t}{T_{d}}) + \frac{t}{T_{d}}exp(-\frac{t}{T_{b}}) \right\} \dots (7)$$

(7)式の応答をFig.3に示す.

(6)式および (7)式で許容偏差を ε_{α} とすれば、この系が実 用的可測系であるためには、 $|E_i - E_o(t)_{t=\infty}|$ は $|E_i \pm \varepsilon_a|$ の部分集合でなければならない.よって、

 $|E_i - E_o(t)_{t=\infty}| \subset |E_i \pm \varepsilon_p|$ (8)

(6)式および (7)式は,ともに t=∞でexp.の項がOとな るので (8)式は

逆関数補償形等価無時定数検出法 (第3報)

$$|E_i\left(1-\frac{K_d}{K_c}\right)| \subset |E_i \pm \varepsilon_a|$$
(9)

よって、 $\exists t_s \in t : O \subset t \subset \infty$, ここで t_s は有限整定時間 である。以上より下式が成立する。

そこで、下式のような近似逆関数形補償法を考える⁴⁾. Fig. 1において

$$G_{c3}(S) = \frac{1}{K_{c3}} \left(1 + \frac{T_{c3}S}{1 + T_{c4}S} \right) \quad \dots \quad (12)$$

ただし $0 < T_4 < T_{c3}$

ステップ入力 Eiu(t)に対する応答E₀(t)は, Tc4≒Ta なるとき,

$$E_{o}(t) = \mathcal{L}^{-1} \frac{K_{d}}{K_{c3}} \frac{1}{1+T_{d}S} \left(1 + \frac{T_{c3}S}{1+T_{c4}S}\right) \frac{E_{i}}{S}$$

$$= \mathcal{L}^{-1} \frac{K_{d}E_{i}}{K_{c3}} \left\{\frac{1}{S(1+T_{d}S)} + \frac{T_{c5}S}{S(1+T_{d}S)(1+T_{c4}S)}\right\}$$

$$= \frac{K_{d}E_{i}}{K_{c3}} \left(\left(u(t) - exp(-\frac{t}{T_{d}}) + \frac{T_{c3}}{T_{c} - T_{c4}} + \left\{exp(-\frac{t}{T_{d}}) - exp(-\frac{t}{T_{c4}})\right\}\right) \cdots (12)$$

ここで $T_{c4} \ll T_{c3}$ とすれば (12)式は下式のようになる







(12), (13)式の応答を Fig. 4, Fig. 5 に示す.2-2 梯形波応答

(1) 逆関数形補償法 この方法は前報²⁾で述べたので 梯形波入力 $E_i(t) = E_i K\{(tu(t) - (t-\tau)u(t-\tau)\}$ に対するこの系の応答 $E_0(t)$ のみを示す.

$$E_{o}(t) = \frac{K_{d} K E_{i}}{K_{c1}} [(T_{c1} - T_{d}) \{u(t) - u(t - \tau)\} + \{tu(t) - (t - \tau)u(t - \tau)\} - (T_{c1} - T_{d}) \{exp(-tu(t)/T_{d}) - exp - (-(t - \tau)u(t - \tau)/T_{d}\}]$$



 $rac{T_{c3} - T_d}{T_{c4}(T_{c4} + T_{c3} - T_d)} > 1$

 $E_o(t)$

Tc3>Td

Te3<Td

Tea=Td

Tc3KdEi

TaKe

KdEi

Kc

Te 3 KaEi



transfer function type

compen saton



40

(3) 近似逆関数形補償法 まず、T_{e3}≒T_d なるときの梯形波応答E₀(t)は、

$$E_{o}(t) = \pounds^{-1} \frac{K_{d}}{K_{c3}} \frac{1}{1+T_{d}S} \left(1 + \frac{T_{c3}S}{1+T_{c4}S} \right) \frac{E_{i}K}{S^{2}}_{a} \\ \left\{ 1 - exp(-\tau) \right\} \\ = \frac{K_{d} KE_{i}}{K_{c3}} \left[(T_{c3} - T_{d}) \left\{ u(t) - (t-\tau)u(t-\tau) \right\} \\ + \left\{ tu(t) - (t-\tau)u(t-\tau) \right\} \\ + T_{d} \left\{ 1 + \frac{1}{Tc_{4} - T_{d}} \right\} \left\{ exp(-\frac{tu(t)}{T_{d}}) - exp \\ \left(- \frac{(t-\tau)u(t-\tau)}{T_{d}} \right) \right\} \\ - \frac{Tc_{3}Tc_{4}}{Tc_{4} - T_{d}} \left\{ exp(-\frac{tu(t)}{Tc_{4}}) - exp(-\frac{(t-\tau)u(t-\tau)}{Tc_{4}} \right\} \right]$$
(18)

この場合は、 T_{c4} はつねに $T_{c4} < T_{d_2}$ の状態にある. 一 般に $T_{c4} \ll T_d$ の条件で適用すれば、近似的に(14)式に 等しくなり、かつ次章の Bode 線図で明らかなように 低域濾波特性も有するので高周波ノイズに対しても影響 も軽減することができる。

2-3 Bode線図

(1) 逆関数形補償法 この場合における Bode 線図 は前後²⁾で述べた.すなわち, $T_{e1}>T_d$ では位相おくれ 補償系を形成し, $T_{c1}<T_d$ では位相進み補償系を形成す る. $T_{c1}=T_d$ においては,理想補償系を形成し周波数 特性が $\omega=\infty$ まで改善されるが,高周波のノイズに対し て濾液効果を有さないための難点が実験的にも観察され た.

(2) 比例不完全微分形補償法 この系の周波数伝達 関数をG₂(j₉)とおけば,

K₂=1となる. (19)式について Bode 線図を描けば Fig. 6のようになる.

(3) 近似逆関数形補償法 この系の周波数伝達関数
 をG₃(jω) とおけば,



Proportional imperfect differential type compen sator. where T_{c2} =Td

ここで、 $K_d = K_{c3} = 1$, $E_i = 1$ とおけば、20式の $K_{3} = 1$ となる。 20式について Bode 線図を描けば Fig. 7のようになる。





3. アナログ計算機実験

3-1 ステップ応答

(1) 逆関数形補償法 この方法におけるアナログ計 算機シミュレーション回路でのステップ応答は,前報1)



lead compensation where $T_c = 1$

で述べたが,他の方法との比較のために Fig. 8に示す



Fig. 9. Analogue simulation for approximate inverse transfer function

(2) 比例不完全微分形補償償法 この方法における アナログ計算機シミュレーション回路を Fig.9 に,実 験結果を Fig.10 に示す. この場合は, $T_{c2}=T_d$ に調 整しても動誤差が相当残ることがわかる.



Fig. 10. Anacom data used of Proportin imperfect differential compension, where $T_{c2}=T_o = 1$ (3) 近似逆関数形補償法 この方法におけるアナロ が演算回路を Fig. 9 に、実験結果を Fig.11 に示す. この場合は、 $T_{c3}=T_d$ に調整した状態で T_{c4} を変化き せたときの応答波形であるが、 T_{c5} の値を漸次小さくす るに従って動誤差が減少しており、近似逆関数形補償法 と称するにふさわしいことがわかる.

Fig. 9 において

ここで、 $K_{c3} = R_i / R_f$, $T_{c3} = kCR_i$, $T_{c4} = cr$ である.



3-2 梯形波応答

逆関数形補償法による梯形波応答を Fig.12 に, 比例不完全微分形補償法による応答を Fig.13 に, 同 様にして近似逆関数形補償法によるものを Fig.14 に 示す.入力の梯形波信号は,アナログ計算機での操作の 都合から t= τ なる時間,すなわちランプの終端で入力 電圧をオフにしている. このため Fig.15 に示すよう に微分コンデンサー の放電により t> τ で逆応答を 示している.

っぎに, Fig.13 の応答は,他の2方法と比較して 動誤差にはそれ程の差が認められない。これは,入力の 梯形波形がステップ入力に比較して高調波成分をそれ程 含有していないためであって,比例不完全微分形補償法 における周波数特性の悪さは無視できると考えられる。



嶺 勝 敏 • 川 崎 元 之



ig. 15. Trapezoid response used of Proportinal imperfect differential compensation. where $T_0 = T^c = 1$



 $T_0 = 1.8$

44

7

4. 実系での実験

Fig.9 に示す近似逆関数形補償アナログ演算回路 による実系実験結果について述べる. Fig. 15に実験装 置の概観を示す.



Fig. 15 Experimental apparatus

つぎに、この演算回路の T_{c3}検および T_{c4}の調整範囲 を Table 1 に示す.

	set	· 1	10	15	20
T _{c3} (sec)	k	0~1.0	0~1.0	0~1.0	0~1.0
	T _{c3}	0~1	0~10	0~15	0~20
Tc4 (sec)	(μf)	0.5	5	7.5	10
	r(kr)	22	22	22	22
	T _{c4}	0.011	0.11	0.165	0.22

Table. 1 $T_{c3} \& T_{c4}$ Values

検出端および変換器は、 北辰電機製で抵抗測温体 (0°C, 502, 白金), 保護管 (SuS 32 相当ステンレス, 径10mm, 挿入長 350mm, フランジ付), 変換器 (ELT140 (H72) 0~150°C, DC 2~mA).

ステップ応答の実験結を Fig.16 に示す.



5. む す び

以上のことをまとめ、今後の問題点もあわせて述べれ ばつぎのようになる。

(1) ステップ入力については,回路の途中から入る/ イズ等の実用面での問題も考えれば,近似逆関数形補償 法が最も良く,ノイズの周波数成分を考慮して Tc4を適 当に調整すればよい.

ノイズ成分と Tet 調整値との関係は,位相面における セパラトリックスによって一意的に関係づけができると 考え,今後研究したいと思っている.

(2) 梯形波入力のように高周波含有率の少ないものに 対する応答は、3方法による補償結果にそれ程の差異が みとめられない。

(3) 近似逆関数形補償法は,現在のところ直流増幅器 を用いたアナログ演算回路で実現しているので,長時間 運転においては零点浮動などの問題点がある. もちろん 検出変換器からの入力が十分大きければ問題はないが, チョッパ増幅器による実験も計画している.

(4) Fig.16 の次出端の応答に見られるように,温度上昇と下昇のときえで次出時定数が異なっており,補 償結果も上昇と下昇とでは異なっている. この原因の1 つは境膜伝熱係数が変るためと考えられるが,種々の実 系での問題点について究明したいと思っている.

(5) Fig.16 にも見られるように,厳密には検出端 は高次系である。また間接測定系ももちろん高次系であ るので,高次補償法について目下研究中である。

最後にアナログ計算機について御討議いただいた臼井 助教授に衷心より謝意を表する次第である。

参考文献

1)	嶺,	川崎:本語	5, Vol	2−1, PP. 55~64,
				(1965)
2)	嶺,	川崎:本記	, Vol	2-2, PP. 39~44,
				(1966)
3)	J.	G. Ziegl	er &N _.	B. Nichols…Dynamic

- Accuracy in temperature measurmet, Instruments, 23, PP. 60~69, (1950)
- 4) 嶺:検出誤差の逆関数型補償, JAACE, 第10期
 通常総会学術講演会, 401, PP. 91~92, (1966)
 (昭和41年6月30日受理)